

2021

# 豊橋市景観計画ガイドライン

地域に調和した建築デザインでこちよい景観を育む

## 目 次

序章 はじめに	3
1. ガイドラインの目的と位置付け	4
2. ガイドラインの対象	5
3. 景観計画の概要とエリア図	5
4. ガイドラインの構成と使い方	7
第1章 景観づくりの基本的な考え方	9
1. 景観づくりの姿勢	10
2. 景観づくりにおける基本事項	12
3. デザインの主な対象要素と配慮のポイント	18
第2章 デザインの進め方	33
1. デザインの手順	34
第3章 デザインの進め方の例	41
1. 東部丘陵里山エリア	42
2. 豊川沿川田園エリア	44
3. 三河湾沿岸工業エリア	46
4. 三河湾沿岸田園エリア	48
5. 前芝湊周辺エリア	50
6-1. 豊橋駅周辺エリア（豊橋駅前付近）	52
6-2. 豊橋駅周辺エリア（旧東海道付近）	54
7. 商業系エリア	56
8. 沿道系エリア	58
9. 住居系エリア	60
10. 近隣工業系エリア	62
11. 二川宿周辺エリア	64
12. 南部田園エリア	66
13. 表浜海浜エリア	68
14. 表浜沿岸田園エリア	70
15. 石巻山眺望保全区域	72
16. 豊川水辺景観育成区域	74
第4章 特殊な工作物と開発行為の景観配慮	77
1. 携帯電話基地局	78
2. 太陽光発電施設	80
3. 開発行為	83
第5章 事前協議と届出制度	85
1. 事前協議と届出制度の概要	86
2. 事前協議と届出の対象行為	87
3. 景観形成基準	94
4. 手続の流れ	94
5. 提出図書	95
参考資料	97
◇ 「地域の景観の特徴」の読み取り方	98

序章  
はじめに

# 1. ガイドラインの目的と位置づけ

## (1) 目的

豊橋市では、誇りと愛着のある美しいまちを目指し、良好な景観形成の取り組みを進めてきました。2021年4月には、その取り組みをさらに進めるため、景観法に基づく「豊橋市景観計画」を策定しました。この計画では、本市の景観形成の目標と方針を示すとともに、建築行為等に対する景観配慮指針や景観形成基準（景観法に基づく行為の制限）、届出等の制度を示しています。

本ガイドラインは、こうした景観配慮指針や景観形成基準、届出等の制度に関する具体的な対応を示したもので、建築行為等に関わる設計者や建築主等の方々に、本市の景観計画に対する理解を深めていただき、地域らしく魅力ある景観づくりを促進することを目的としています。

魅力ある景観は、規制だけで実現できるものではなく、地域の特性を踏まえた創造的なデザインへのたゆまぬチャレンジによって生まれます。本ガイドラインでは、つくり手側の創意工夫を活かしながら、より地域らしい景観が育まれるよう、景観デザインの進め方や事例を示しています。景観デザインを検討する際に本ガイドラインを積極的に活用していただき、豊橋らしい心地よい景観を共に育てていきましょう。

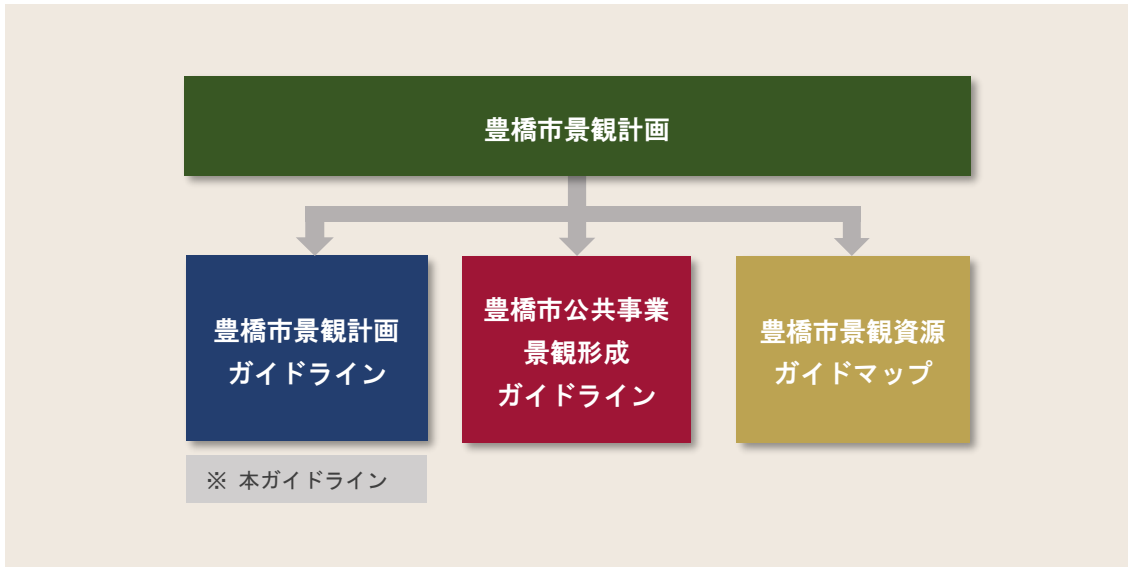
## (2) 位置づけ

景観計画を補完する図書として、「豊橋市景観計画ガイドライン(本ガイドライン)」、「豊橋市公共事業景観形成ガイドライン」及び「豊橋市景観資源ガイドマップ」があります。良好な景観形成がより推進されるよう、計画や設計等を行う際に、景観計画とともにこれらをあわせて活用してください。

景観計画では、一定規模を超える建築行為等に対して、豊橋市まちづくり景観条例に基づく事前協議（国又は地方公共団体は任意の事前相談）と、景観法に基づく届出（国又は地方公共団体は通知）が必要となります。事前協議や事前相談においては、ガイドラインを活用しながら、景観形成基準への適合の確認やより良好な景観形成に向けた協議を行います。法に基づく届出や通知においては、ガイドラインを参考に基準への適合の判断を行います。

また、本ガイドラインは、事前協議や届出等の対象にならない規模のものに対しても活用できるようにまとめています。設計士が景観デザインの参考書や家づくりの提案資料として用いるなど、様々な場面で積極的に活用してください。

■ 図 本ガイドラインの位置づけ



## 2. ガイドラインの対象

本ガイドラインは、建築物の建築等（新築、増築、改築、移転、外観の変更等）、工作物の建設等（新設、増築、改築、移転、外観の変更等）、開発行為を対象としています。

なお、公共事業で整備する橋梁等の工作物や学校等の公共建築物、面的開発により道路や公園等を整備する開発行為については、「公共事業景観形成ガイドライン」もあわせて活用してください。

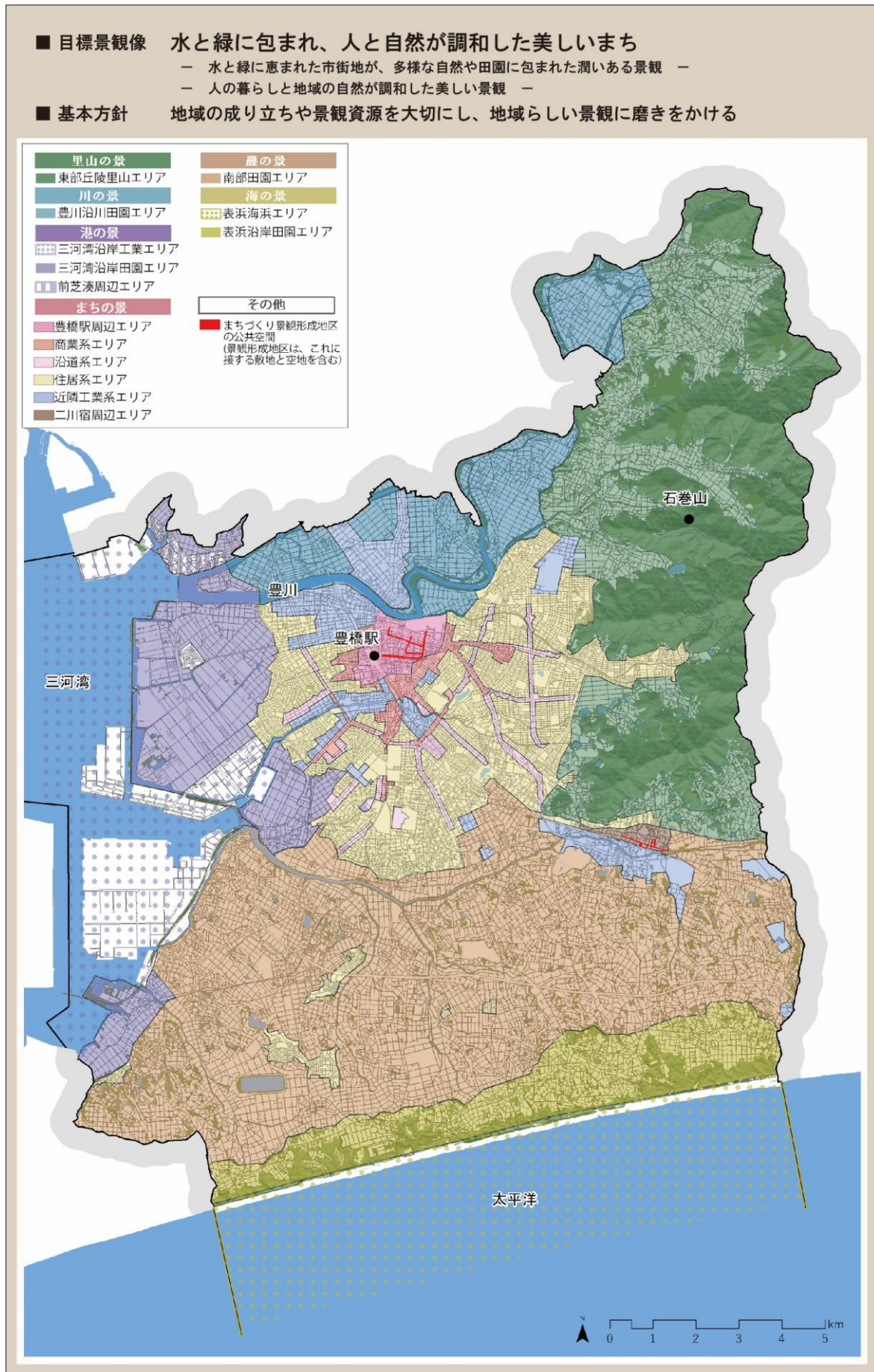
## 3. 景観計画の概要とエリア図

景観計画では、本市全体の目標景観像と基本方針を定めるとともに、土地利用や地形、自然状況などの景観特性から市域を6つの地域に区分し、地域別の方針を定めています。また、6つの地域を14のエリア（景観計画 P97～99）に細分化するとともに、石巻山眺望保全区域（景観計画 P161）と豊川水辺景観育成区域（景観計画 P164）を示し、それぞれについて景観形成の配慮指針（景観形成基準）を定めています。

建築行為等を行う場所が、どのエリアに該当するのかを把握した上で、本ガイドラインを活用してください。



■ 図 景観計画の概要図



## 4. ガイドラインの構成と使い方

本ガイドラインでは、景観づくりの基本的な考え方を示すとともに、景観計画で定めた景観配慮指針や景観形成基準への具体的な対応について、エリアごとに事例を示しながら説明しています。また、事前協議や届出制度等について、具体的な運用を解説しています。

建築行為等に係る設計者や建築主の方々は、計画や設計、手続き等の際に、対象となる部分を活用してください。

ガイドラインの構成	使い方
<b>序章 はじめに</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイドラインの目的と位置付け</li> <li>2. ガイドラインの対象</li> <li>3. 景観計画の概要とエリア図</li> <li>4. ガイドラインの構成と使い方</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●このガイドラインと景観計画の概要を確認したいとき</li> </ul>
<b>第1章 景観づくりの基本的な考え方</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 景観づくりの姿勢</li> <li>2. 景観づくりにおける基本事項</li> <li>3. デザインの主な対象要素と配慮のポイント</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●建築物等をデザインする際の良好な景観づくりの考え方や景観配慮のポイントを確認したいとき</li> </ul>
<b>第2章 デザインの進め方</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. デザインの手順</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●このガイドラインで用いるデザインの手法とその流れを確認したいとき</li> </ul>
<b>第3章 デザインの進め方の例</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 東部丘陵里山エリア</li> <li>...</li> <li>16. 豊川水辺景観育成区域</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●各エリアにおける景観配慮の具体的な対応について、デザインの事例を見ながら確認したいとき</li> </ul>
<b>第4章 特殊な工作物と開発行為の景観配慮</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 携帯電話基地局</li> <li>2. 太陽光発電施設</li> <li>3. 開発行為</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●携帯電話基地局や太陽光発電施設、開発行為の具体的な景観配慮を確認したいとき</li> </ul>
<b>第5章 事前協議と届出制度</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事前協議と届出制度の概要</li> <li>2. 事前協議と届出の対象行為</li> <li>3. 景観形成基準</li> <li>4. 手続の流れ</li> <li>5. 提出図書</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●事前協議と届出制度について、制度の内容やその運用等を確認したいとき</li> </ul>
<b>参考資料</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>◇ 「地域の景観の特徴」の読み取り方</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●デザインを進める際に必要となる、地域の景観の特徴の読み取り方を知りたいとき</li> </ul>





## 第1章

# 景観づくりの基本的な考え方

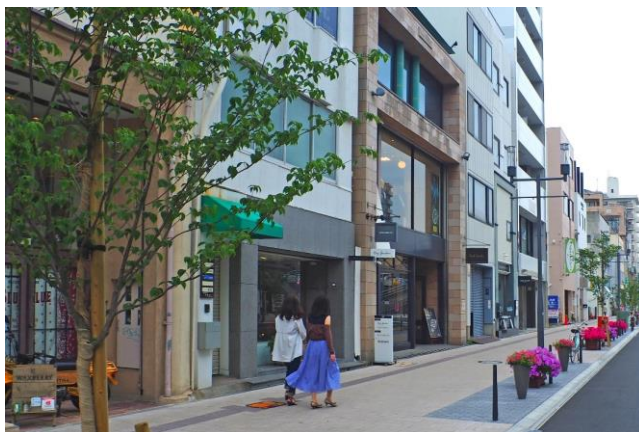
# 1. 景観づくりの姿勢

## (1) まちを彩り、暮らしを豊かにする

私たちの日常と景観は、どのように関わっているのでしょうか。

住まいやお店などの外観は通りに向けられており、行き交う人々が目にするものです。例えば一軒の素敵なお店ができたとします。すると、その場所を通ったときのまち並みの印象が少し違って見え、ワクワクする気持ちになるかもしれません。

家づくりや店づくりを行う際に、ひとり一人がまちとの調和を意識しながらデザインすると、魅力的なまち並みが生まれ、暮らしの環境が豊かになるでしょう。



## (2) まちの印象を高める

多くの人々が訪れる場所の景観は、そのまちの印象に大きく影響します。

例えば豊橋市の中心市街地では、まちのシンボルである路面電車を主役とした印象的な景観づくりが望まれます。沿道の建築物や道路内の施設に、落ち着いた色彩を用いるなど、通り全体の協調した取組みを続けることで、調和のとれた魅力的な景観が生まれるでしょう。

こうした景観づくりによって、まちの印象が高まると、住みたいまちや訪れてみたいまちとしての魅力も高まるでしょう。



### (3) まちへの調和で共感を生み出す

商売やビジネスに有効な、店のしつらえや屋外広告物のデザインとはどのようなものでしょうか。

派手な色彩を用いたとにかく目立つ外観や、商品や価格などを表示した即物的な広告は、人々の感覚を刺激します。しかし、それらが景観に混乱をもたらす要因になっていることも多いものです。

シンプルであっても周辺の景観に配慮した良質なデザインにすれば、「いい雰囲気だな」という共感が生まれ、お店のファンになってもらうことにもつながり、企業の社会的評価も高まるでしょう。



### (4) まちへの誇りと愛着を高める

人々の価値観や社会情勢の変化により、住み続けたいと思えるまちづくりがこれまで以上に大切な時代になりました。

地域の歴史と文化を引き継ぐ建造物が、まち並みと調和して保全されている。ふるさとの山並みを眺めながら、心地よく過ごせる美しい公園が身近にある。大きな木が大切にされ、地域のシンボルになっている。そうした景観は、我がまちへの誇りと愛着を高めます。

地域の景観資源を大切にし、それらを活かした景観づくりを進めることで、我がまちへの誇りと愛着が高まり、ずっと住み続けたいと思えるまちにもなるでしょう。



## 2. 景観づくりにおける基本事項

### (1) 地域性を考える

景観は、自然や地形を基盤として、そこに人々の暮らしや活動が加わり、長い歴史のなかで培われてきた文化が表出して、地域性が表れます。豊橋らしい心地よい景観づくりのためには、こうした地域性を考えることが大切です。

#### ① 自然・地形

豊橋市は、市街地が、山、川、海などの多様な自然に包まれ、地域ごとに特徴的な地形があります。建築行為等の場所とその周辺の自然や地形の特性を読み解くことで、デザインの手がかりが見えてきます。

自然や地形を尊重し、それらに調和するよう敷地や建築物等をデザインしましょう。



#### ② 歴史・文化

豊橋には城下町、宿場町、湊町、農村など、地域ごとに異なる成り立ちの場所があります。それぞれの歴史・文化を踏まえ、新たな歴史を紡ぐという意識を持ってデザインすることが大切です。

長い歴史のなかで培われてきた空間構成やまち並みの秩序を尊重するとともに、地域の伝統的な様式や素材を取り入れるなど、歴史や文化を大切にデザインしましょう。





### ③ 暮らし・生業

住宅地では、玄関先に飾られた美しい草花や、通りから見え隠れする庭の緑が暮らしの景観を豊かにしてくれます。集落地では、黄金色の水田や果樹の実りなど、四季折々に変化する生業の景観がやすらぎを与えてくれます。また、季節ごとに執り行われる社寺の祭りや地域の催しなども景観に彩りを与えてくれます。

暮らしや生業の景観を美しく見せるとともに、ハレの日の行事が映えるような色彩にするなど、身近な景観が豊かになるよう配慮しましょう。



## (2) 時間の変化を考える

自然や建築物等の素材は、年月の経過で変化します。また、光と影は、一日の時間のなかで変化し、夜間は、照明により昼間と違った景観が現れます。

時間の変化を考えて、その特性を活かしたデザインを行い、より豊かな景観を育みましょう。

### ① 経年変化を考える

自然の木々は、年月の経過とともに成長し、樹形やボリュームが変化します。木や石等の自然素材は、年月の経過とともに色味や表情が変化します。こうしたエイジングの効果を活かして、より魅力ある景観を育みましょう。



### ② 四季の変化を考える

落葉広葉樹は、季節ごとに葉の色合いや容姿が変化します。花や実のなる木々は、美しい彩りや心地よい香りをもたらすと同時に、鳥や蝶が訪れる豊かな環境を育みます。こうした特徴を活かしながら緑をデザインし、季節の変化が楽しめる美しい景観を育みましょう。



### ③ 一日の時間の変化を考える

太陽の光は、昼間、様々なものに陰影を生み出します。また、明け方や夕暮れ時には、空を鮮やかに染め上げ、朝日や夕日そのものが美しい景観になります。日が沈むと、照明による光の演出が可能になります。一日の時間の変化を考えて、光と影をデザインし、より魅力ある景観を育みましょう。



### (3) 空間を考える

建築物等の整備を行う際は、施設そのものの形をつくるだけでなく、空間をデザインすることも大切です。それは、場所としての居心地、雰囲気、使いやすさなどの空間の質をどうするかを考えることともいえます。

空間のスケール、まとまりや広がり、質感、匂いなど、人の五感に与える影響を考えて、居心地のよい空間をデザインしましょう。

#### ① 人の尺度に合わせる

人はほどよく包まれた空間に心地よさを感じます。その空間の大きさは、周辺にあるものの種類や大きさなどによって感じ方が異なります。人の居場所や通行の場となる空間が、利用者にとって心地よいものとなるよう、人の目線からの見え方を考慮して丁寧にデザインしましょう。



#### ② 五感で感じる

空間の認識は視覚による影響が最も大きいといえますが、それ以外にも音、匂い、手触りや踏みごたえ、場合によってはその空間で食する味など、豊かな空間体験は全身で感じ取るものです。五感を意識して心地よい空間をデザインしましょう。





## (4) 関係性を考える

一つの眺めのなかにある様々なものの景観上の位置づけは、その性格や周辺景観の状況によって「主役」「脇役」「背景」の3つ捉え方があります。また、視点場（見る場所）からの距離によって建築物等の見え方は「近景」「中景」「遠景」の3つの捉え方ができます。

周辺景観の状況や視点場との関係性を確認し、適切な配慮を行いましょう。

### ① 主役・脇役・背景

#### ■ 主役

建築物等をランドマークとして見せるときは、主役として際立つデザインを考えましょう。単に目立つということではなく、配置や形態、色彩などに工夫をこらし、上質なデザインにすることで、周辺の景観をけん引しましょう。

#### ■ 脇役

眺めのなかに主役となる景観資源があるときは、主役を引き立てるよう、脇役としてのデザインを考えましょう。主役である景観資源の見え方を阻害せず、主役とも調和したデザインにすることで、主役とともに景観の質を高めましょう。

#### ■ 背景

周辺に美しい自然や魅力的なまち並みなどがあるときは、周辺の景観に溶け込むよう、背景としての控えめなデザインを考えましょう。形態やスケール感はもとより、色彩や素材についても眺めのなかで目立たないように配慮しましょう。





## ② 近景・中景・遠景

### ■ 近景

近景では細部のデザインまで判別することができます。建築物等の部材の意匠や、仕上げの表情等、細部についても質の高いデザインとなるよう工夫しましょう。

### ■ 中景

中景では細部のデザインまでは判別できませんが、複数の施設の形態や色彩について周辺との関係性が意識されます。ファサードやまち並みの連続性、周辺景観との調和に配慮しましょう。

### ■ 遠景

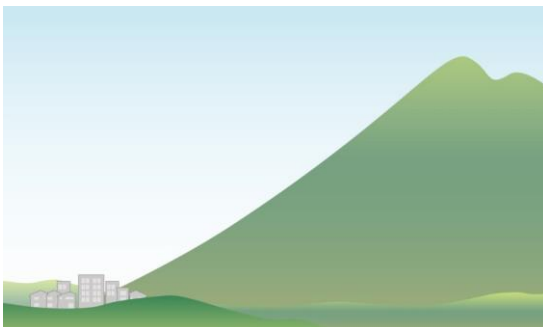
遠景では、個別の建築物等も大きな景観のまとまりのなかで捉えられます。シルエットや色彩が周辺のまとまりのなかで突出しないよう配慮しましょう。



近景：建築物等の細部の意匠や素材まで分かる。



中景：建築物等の形態や色彩について、まち並みや周辺との関係性が分かる。



遠景：まち並みのシルエットが周辺の景観とともに見える。

### 3. デザインの主な対象要素と配慮のポイント

#### (1) スケール

建築物等のスケール（規模）は景観に大きな影響を与える要素です。周辺の景観を踏まえ、見え方に応じた配慮を考えましょう。

##### ① 周辺に馴染むスケールを考える

周辺から突出した大きすぎる建築物は、違和感を生じさせる原因になります。調和のとれた景観になるよう、背景や周辺の建築物に馴染むようデザインしましょう。



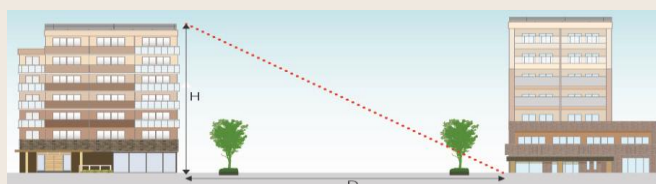
##### ② 通りへの負の影響を緩和する

通りなどの公共空間に面した大きすぎる壁面は、圧迫感や威圧感を感じさせる原因になります。道路境界から壁面を後退させたり、オープンスペースを広く確保したりするなど、負の影響を緩和するよう配慮しましょう。

##### ■ 通りのプロポーションを考える

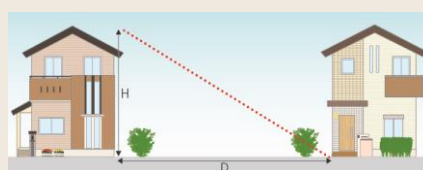
通り空間の印象は、道路の幅員（D）と沿道の建築物の高さ（H）の比率（D/H）によって変化します。まち並みのルールづくりを行う際に検討するとよいでしょう。

D/Hが大きいと広がり感のある開放的な印象の空間となりますが、通りとしてのまとまりは感じにくくなります。



D/Hが大きい、広がり感のある開放的な印象の空間

逆にD/Hが小さいと囲まれ感のある落ち着いた印象の空間となりますが、場合によっては圧迫感を感じることもあります。



D/Hが小さい、囲まれ感のある落ち着いた印象の空間

## (2) 配置

配置は、敷地内の機能面などの視点だけでなく、周辺景観との関係性の視点を含めて考えましょう。

### ① 地域性を継承する

集落地や歴史的なまちでは、古くから継承されてきた建築物の配置の作法があります。そうした作法を尊重し、地域性を継承しましょう。



### ② 道路との関係を考える

建築物の前面空間の広さや使い方によって、建築物やまち並みの印象は大きく変わります。目指すイメージに合わせて配置をデザインしましょう。



人だまりの空間を演出するため奥行を持たせて配置（セットバック）



街路と室内が親密な関係となるよう配置（セットフロント）

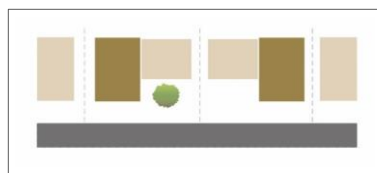
### ③ 連続性を意識する

隣棟間隔が適度で壁面位置がそろっていると、統一感のあるまち並みになります。一方で、壁面位置を凸凹にして見え隠れをつくりだすと、リズム感や期待感のあるまち並みを生み出すことができます。

建築物の配置は、まち並みのつながりを意識しながら丁寧にデザインしましょう。



壁面位置、隣棟間隔が整ったまち並み



計画的に壁面位置に凸凹を設けて整えたまち並み



一部だけ突出したまち並み（秩序が乱れやすい）

### (3) 形態意匠

形態意匠は、建築物等のアイデンティティを表現するものであり、建築主や設計者が個性を発揮したい部分です。こうした表現は、地域性や周辺のまち並みとの適切な関係性を保つ範囲で行いましょう。

#### ① 周辺と調和する形態意匠を考える

同じ規模の建築物等でも、形態意匠によって見え方や受ける印象は大きく変わります。機能や用途からボリュームを抑えることが難しいときでも、人の視覚的な特性も踏まえて形態意匠を工夫することで、周辺景観に調和させることが可能です。

##### ■ 丁寧に表情をつくる

小規模な建築物のまち並みに、無表情で大きな壁面があると、違和感が生じます。

そうした場合は、壁面の一部を後退させたり、仕上げの工夫で外見を分節化したりするなど、まち並みに調和した表情を丁寧に作りましょう。

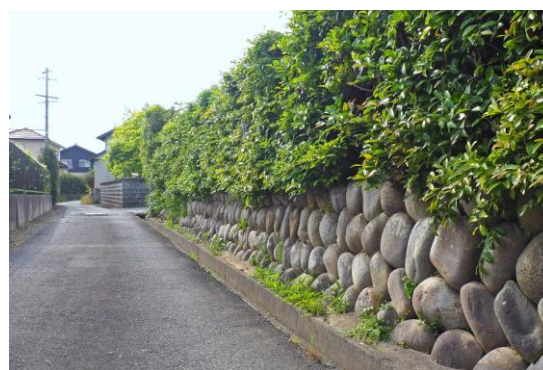


部位に沿った分節化によりまち並みに調和した表情をつくる

#### ② 地域性を踏まえる

地域性を踏まえ、周辺景観と調和した地域らしいデザインを考えましょう。手がかりになるものは、例えば以下のようなものが挙げられます。

地域性の手がかりとなるもの（例）		調和の工夫（例）
自然・地形	背景となる山並みや周辺の植生など	屋根の傾斜を、背景の山並みや土地の傾斜の方向に合わせる。
歴史・文化 まち並み	地域で培われた生活の知恵や風習、建築様式など	地域でよく見られる石材や木材を用いる。
まちづくり	地域で共有されたまちづくりの方針や取組みなど	商店街の取組みイメージに合わせて、屋外広告物のデザインを統一する。



防風や水防のために設けられた外構。地域で採れる石材や地域の環境に適した木が使われている。



## (4) 色彩

景観計画では、使用できる色彩の範囲を定量的に定めています。色彩はまちの印象や人の心理に大きな影響を与える重要な要素であるため、地域の景観に調和した色彩を選ぶことが大切です。

色彩に関する「景観形成基準」は、景観計画 P175～179 を参照

### ① 色彩の基礎知識

#### ■ マンセル表色系

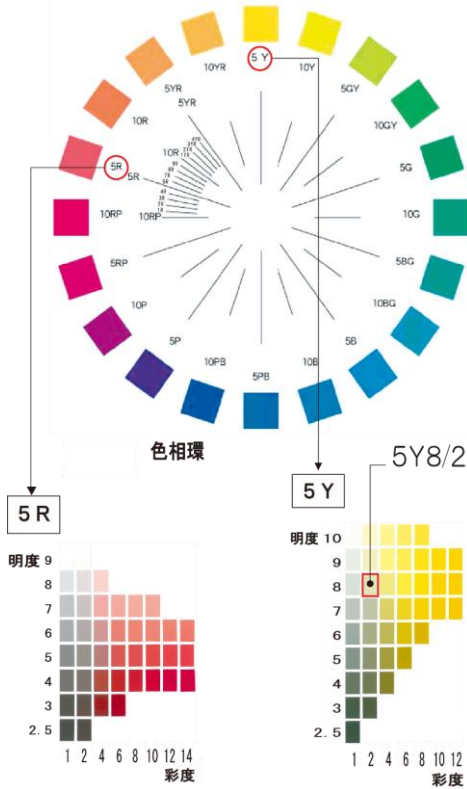
景観計画では、色彩を客観的な尺度で表す方法として、日本産業規格（JIS）に採用されているマンセル表色系を用いています。

マンセル表色系では、色彩を以下の3属性により表現します。

**色相：**色合いを示します。R (赤)、YR(黄赤)、Y (黄)、GY (黄緑)、G (緑)、BG (青緑)、B (青)、PB (青紫)、P (紫)、RP(赤紫)の 10 種類の基本色を記号で表現し、記号の前に 0 から 10 の数字をつけ、色の違いを細かく表記します。

**明度：**色の明るさを示します。0 から 10 の数字で表現し、数字が大きくなるほど明るくなります。10 は白、0 は黒になります。

**彩度：**色の鮮やかさを示します。0 から 16 程度までの数字で表現し、数字が大きくなるほど鮮やかになります。最高彩度は色によって限界が異なるため、色相によって最高の数値が異なります。また、白、黒、灰色は無彩色（記号 N）といふ彩度は 0 です。



色の表示は、色相、明度、彩度の順に示します。

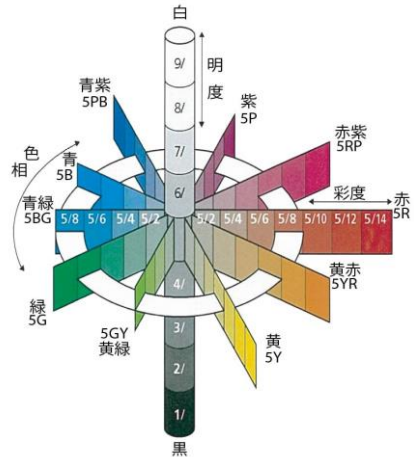
■ 表示例 **5 Y 8/2**  
色相 明度 彩度



新緑：2.5GY6/6



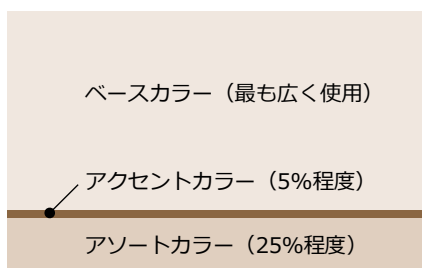
熟れた柿：5YR7/12



## ■ 基調色・補助色・強調色

同じ形態の建築物等でも、配色によって受ける印象や周辺景観との調和の度合いは大きく変わります。状況に応じて、色の組み合わせや比率などを丁寧に検討しましょう。

基調色	ベースカラー	・最も大きな面積を占める色彩
補助色	アソートカラー	・スケール感の低減などに効果がある色彩 ・例えば中規模建築物の場合、各見付面積の25%程度に使用
強調色	アクセントカラー	・変化や個性を与える色彩で、低層部に用いると効果的 ・例えば中規模建築物の場合、各見付面積の5%程度に使用



左の割合は、中規模建築物を例としたイメージです。建築物の規模や形態などに応じて、ふさわしい面積バランスは変わるので注意が必要です。

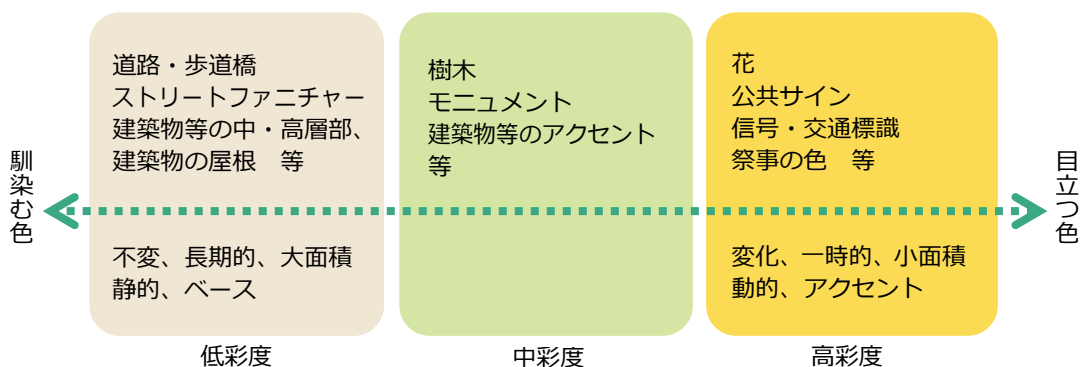
自然環境では、通年を通して高彩度のものはあまり見られないため、自然を背景とした集落景観などでは、彩度の高い強調色の使用は避けるようにします。

## ■ 目立たせるもの・なじませるもの(誘目性)

眺めのなかで、目立たせるものと馴染ませるものの秩序が良好に保たれていると、美しく心地よい景観と評価されます。

目立たせるべき色彩は、信号や標識のように公共的な情報伝達を担うもの、花や祭事の装飾のように一時的な彩を加えるものなどです。

道路など景観のベースとなるものや、建築物、工作物など一年を通して同じ場所にあるものは、なじませるべき色彩です。



## ■ 素材と色彩

同じ色彩を用いても素材が異なれば、景観に与える印象も異なります。自然素材の疑似色を人工素材で用いる場合は注意が必要です。



## ■ 建築物や工作物によく使われる色

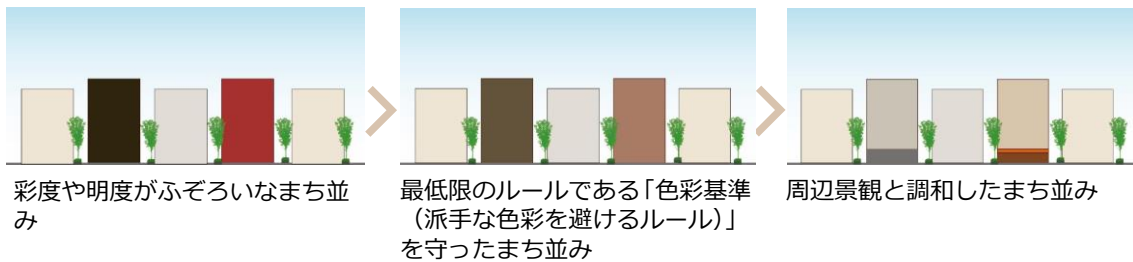
建築物や工作物には、様々な規模や用途のものがありますが、それらの多くは、暖色系（色相：YR,Y）の中～低彩度（彩度：4以下）の色を基調としています。



## ② 色彩計画の基本

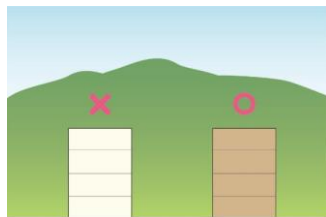
### ■ 基本的な考え方

より良い景観をつくるためには、色彩が周辺景観と調和していることが大切です。景観計画の色彩基準を守るだけでなく、背景となる自然や周辺のまち並みなど、地域の色彩の特徴を踏まえ、さらに施設の規模や形に合った適切な配色とし、より良好な景観づくりに努めましょう。



### ■ 自然と調和させる

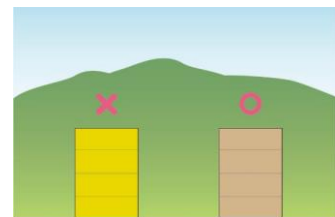
同じ色彩や素材でも、背景の違いによって見え方が異なります。特に、緑や水面を背景とした場所では、背景となる自然景観と調和する色彩や素材を丁寧に考えます。



背景が山並みなどの緑の場合は、基調となる色彩は高明度を避ける。



周辺が開放的な環境や背景が空の場合は、基調となる色彩は、低明度を避ける。



周辺の自然の彩度から突出しない。

### ■ まち並みと調和させる

周辺のまち並みと「色相」をそろえると、うまくなじみます。



類似の色相を用いることによって、違和感のない配色になる。

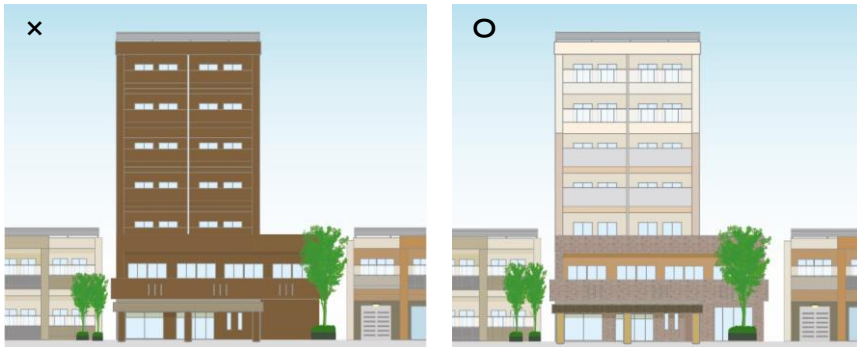


## ■ 規模や形態に応じて配色する

建築物の大きな外壁や高い外壁が周辺に圧迫感を与えず、まち並みに調和するものとなるよう、規模や形態、機能に合わせて色彩に変化をつけます。



横方向の分節化により、長大な印象を低減させる。



縦方向の分節化により、まち並みからの突出感を低減させる。



大きな面積の低明度色は、低い位置で使用する。

部位の用途や機能に合わせて適切な色彩を用いる。



色の塗分けは、形態や部位に沿って行う。

## ■ 屋外広告物を建築物やまち並みと調和させる

屋外広告物は、目立つ色彩の大きなものが設置されやすく、それらが建築物や敷地の様々な場所に配置されると、まとまりのない印象を与えかねません。また、そうした屋外広告物は、まち並み景観を混乱させる要因にもなります。

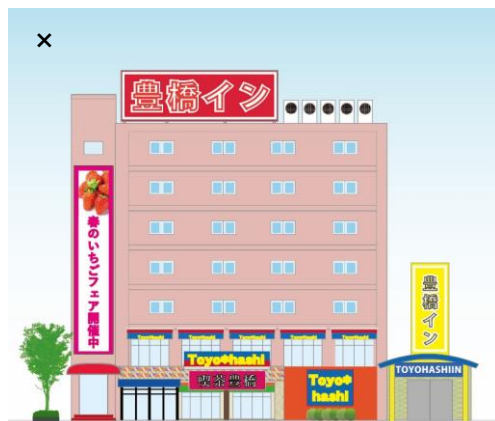
そのため、屋外広告物を設置する場合は、建築物やまち並みに調和するよう丁寧にデザインし、彩度の高い色彩は少しの面積に限り、集約化等を図る等、すっきりと見えるように工夫しましょう。

### ■ 例1



屋外広告物は、建築物のデザインに調和するよう、色彩や大きさ、配置、形態等に配慮する。また、まち並みとの調和も意識し、質の高いデザインに努める。

### ■ 例2



屋外広告物は、必要な情報を整理した上で集約化し、建築物とのバランスや周辺のまち並みとの調和にも配慮して美しく表示する。

## ◆ 色彩の豆知識

### ■ 騒色(そうしょく)

騒色とは、周辺景観に対して目立ちすぎて、目にする人々に不快感を与える色彩のことです。騒音がひどいと大事な話や自然の音が聞こえなかったり、不快な気分になったりするように、色が氾濫すると神経が刺激され落ち着かない気持ちになったり、自然の色や大切なサインなどに気づきにくくなります。

良好な景観づくりのため、場所や役割に応じてふさわしい色彩を考えることが大切です。

### ■ 言葉のイメージで色を決めない

施設の用途などの言葉から連想した色を採用すると、周辺景観と不調和になる場合があります。

例えば、水道水が通る管が青く塗られ、自然のなかで目立ちすぎていることがあります。これは「水」の言葉から「青」をイメージして塗装したものです。安易な連想によらず、周辺景観との調和に配慮して色彩を考えましょう。



改善前の青い水管橋



周辺景観と調和する色彩になった水管橋

### ■ 自然の緑に調和させるには

自然の緑は、葉の一枚一枚の色や表情に違いがあり、それぞれが重なりあって陰影ができ、夏は濃い緑色、秋は紅葉し赤茶色、冬は落葉し薄茶色と美しく変化していきます。

こうした自然の緑に調和させるには、緑が映える色を選ぶことが大切です。建築物や工作物を自然と調和させるには、緑を支える幹や土と同じ暖色系の色相(YR,Y)を選び、自然の緑より彩度を抑えるとよいでしょう。



春(4月)



夏(8月)



秋(10月)



冬(2月)



## (5) 素材

素材を活かして丁寧にデザインすることで、景観の質を高めることができます。仕上げ材の工夫による表現はもちろん、構造材の質感をそのまま活かしたダイナミックな演出や、経年変化を活かしたデザインなど、多面的な視点から素材の可能性を探りましょう。

### ① 素材の風合いを活かす

素材や表面の仕上げは、細部まで判別できる近景の印象に大きな影響を与えます。

仕上げの材料は、色彩だけでなく素材の持つ質感や仕上げの表情などを総合的に考えましょう。

#### ■ 素材や仕上げから感じられる印象の例

素材	仕上げ	感じられる印象の例
木材	木目などを活かす	伝統的／自然的／親しみのある／温かみのある
	製品として加工する	エコ／自然と技術の親和
煉瓦、タイル		格調高い／風格のある／歴史のある
コンクリート ・ 石材	凹凸がある	無骨な／重厚感のある
	円滑な仕上げ	都市的な／画一的な／整然
金属		都市的な／洗練された／冷たい／ きらびやかな
ガラス		都市的な／先進的／軽快な／開放感のある

### ② 経年変化を織り込む

素材を活かしたデザインでは、経年変化を考慮しましょう。

竣工時の外観を長く保ちたいときは、経年変化が生じにくい素材を選定し、風雨の影響を和らげる工夫をします。一方、経年変化によって深みを増す素材をあえてデザインに活かすことも、魅力ある景観づくりに効果的です。





## (6) 植栽

植栽は景観に潤いを与える重要な要素で、建築物等のデザインと一体的に考えることが大切です。緑の量だけでなく質にも配慮し、敷地全体の演出を考えましょう。

### ① 緑の多面的な魅力を活かす

緑には視覚的な効果だけでなく、以下のような多面的な効果があります。これらの効果を活かした植栽計画を行い、魅力的な景観を育みましょう。

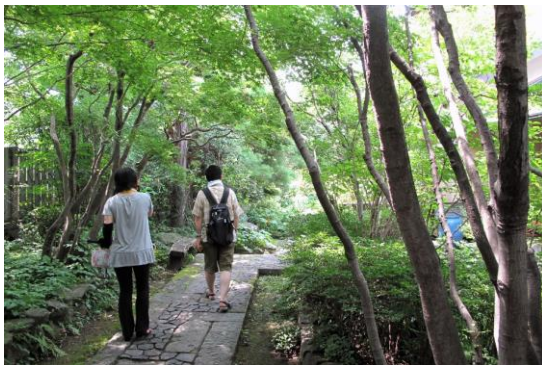
#### ■ 緑の多面的な効果の例

木陰をつくる	香りや実り	いのちを育む	記念する
<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季に快適な屋外空間をつくります。</li> <li>・人が集まり、賑わいが生まれます。</li> <li>・木漏れ日は心地よさを感じさせます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・香りのある植物や果実をつける植物は、四季など時節の変化を感じさせます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・草木は、鳥類や昆虫といった生き物の住処となります。</li> <li>・多様ないのちを育みます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寿命の長い高木等は人の営みとともに生長し、時の流れを思わせます。</li> <li>・場所の歴史や思い出を将来に残します。</li> </ul>



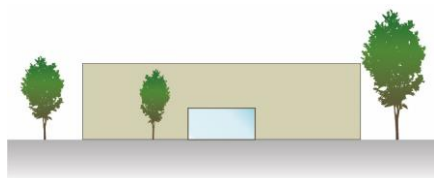
### ② 緑の種類を考える

地域の生態系や周辺環境との調和に配慮し、在来種による植栽を基本としましょう。また、敷地全体のコンセプトに沿って適切な樹種を選択し、成長を考慮しながら配植し、魅力ある景観を育みましょう。

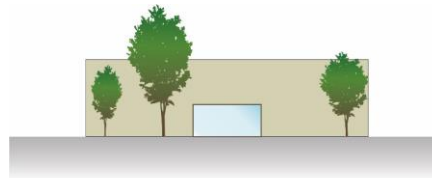


### ③ 植栽配置を考える

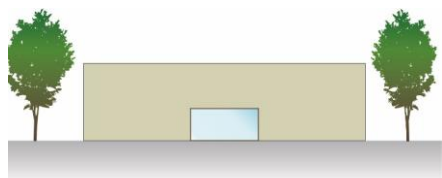
植栽の配置は、建築物等との関係性を考えてバランスよくデザインしましょう。敷地の緑として地上に配置する他、屋上緑化や壁面緑化により、視界に入る緑の量を増やすことも考えられます。また、高木の配置によって、建築物等のスケール感をコントロールすることも可能です。



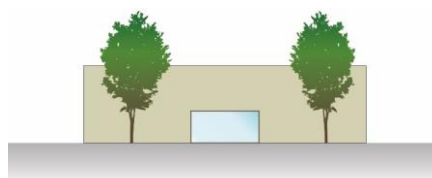
建物を広く見せる。



建物を狭く見せる。



建物を大きく見せる。



建物を小さく見せる。

### ④ つながりを考える

敷地内の緑の配置を考えるだけでなく、周辺の庭や街路樹、公園などの緑とのつながりにも配慮して、周辺を含めた良好な緑の景観をつくりましょう。日本庭園における作庭の手法を応用し、背景の山並みを借景にすることも有効です。



## (7) 夜間照明

昼間の景観とあわせて、夜間の景観を演出することは、都市の魅力を一段と高めます。夜間照明は、昼間の景観以上に意図に沿った演出が可能となるため、積極的に照明デザインを考えましょう。

### ① 光と影をデザインする

夜間の美しい景観をつくるには、全体を均一に照らすのではなく、あえて陰影を生み出すなど、光と影をデザインすることが大切です。

ライトアップを行うにあたっては、むやみに光源を増やすのではなく、最も人の目に触れるファサードや樹木などの鉛直面の輝度を高めることで、効率的・効果的に夜間景観を演出できます。

また、人の動線や視線の移動に沿って連続した灯りを設けることで、奥行き感を演出することも効果的です。



### ② コンセプトに応じて色温度を設定する

色温度の高い白～青味がかかった光は緊張感や高揚感を、色温度の低い赤みがかかった光は落ち着きや安らぎを感じさせます。このために、色温度の違いは夜間における人々の活動にも影響を与えます。

建築物等の性格や周辺環境など地域の特性を踏まえつつ、景観づくりのコンセプトに応じて色温度を設定することが必要です。



地域ごとの色温度の目安

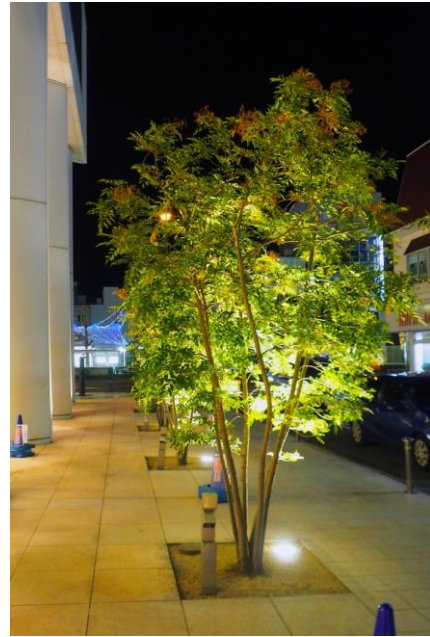




### ③ 照明の対象物の色味を活かす

光源の種類によっては、対象物が色褪せて見えたり、自然光（太陽の光）の下とは異なる色彩に見えたりするものもあります。魅力的な夜間景観をつくるには、自然光に近い色彩で見える演色性の高い光源を選択することも大切です。

建築物のファサードや樹木自体が持つ本来の色味を活かしたり、そこで活動する人の肌を美しく見せたりする照明により、生き生きとした魅力ある夜間景観をつくりましょう。



樹木等の色味が再現されている。

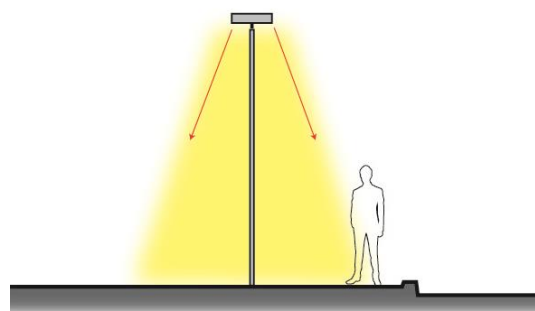
### ④ 不快な光を抑制する

直接目に入る光源からの光は、不快に感じるまぶしい光（グレア）です。グレアが大きいと夜間照明による演出も効果が台無しになりかねないため、照射方向の工夫やフード・ルーバー等の配光装置の活用により、グレアが抑制された快適な光環境としましょう。

また合わせて、人々の生活や動植物などに悪影響を及ぼす光害を抑制し、省エネルギーにも配慮しましょう。



高いグレア



フード・ルーバー等の配光装置の活用



## 第2章

# デザインの進め方

# 1. デザインの手順

豊橋市景観計画では、「地域の成り立ちや景観資源を大切にし、地域らしい景観に磨きかける」ことを基本方針にしています。そこで、市域を景観特性の面から14のエリアに細分化するとともに、石巻山眺望保全区域と豊川水辺景観育成区域を設定し、それぞれについて景観形成の配慮指針（景観形成基準）を定めています。

本ガイドラインでは、建築物等のデザインが、それぞれの場所において、景観形成の配慮指針（景観形成基準）に適合したものとなるよう、「※パタン・ランゲージ」の理論を参考にした「キーワードを用いたデザイン手法」を用いて、具体的なデザインの進め方を示します。

## (1) キーワードを用いたデザイン手法

地域ごとの景観の特徴を将来にわたって継承し、さらに磨いていくためには、「地域らしさ」と「魅力アップ」の観点を重視してデザインを進めることが大切です。

その際に配慮すべきことを言語化したものを、「**キーワード**」と名付けました。

地域ごとの景観の読み取りを行うこと、読み取った特徴からデザインのコンセプトを検討してデザインに落とし込むこと、その一連の取組みに**キーワード**を用いることで、より意識的に景観配慮を行うことができます。

さらに、事前協議などの場で**キーワード**が共通の言語となり、より創造的なデザインが生まれることにつながります。

### ■ キーワードを用いた建築物のデザインのイメージ

落ち着いた色合い

外観は、落ち着いた色合いにして、自然や農地に調和させます。

包み込む緑

背景の山並みや周辺の農地に溶け込むように、生垣などで建築物を包み込みます。

穏やかな屋根

屋根は、背後の山並みや集落の家々と調和するように勾配屋根とします。



## ◆ パタン・ランゲージとは

クリストファー・アレグザンダーが提唱した建築・都市計画の理論です。

人々が心地よいと感じる環境には、国や地域に関わらず共通点があるとされ、その普遍的な環境の質を253の「パタン」として整理してあります。

この「パタン」は家づくりやまちづくりのヒントになるもので、組み合わせることでデザインの考え方をまとめていくことができます。これが「ランゲージ」となります。

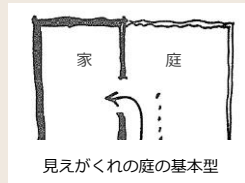
地域の特徴に応じて固有のパタンがあるはずなので、新たに見つけ出して追加し、地域らしいデザインに取り組むことを勧めています。

### 「見えがくれの庭 (Half-Hidden Garden)」

街路から庭が近すぎると、安心感が足りない。一方で、家の裏側にある庭は物寂しくくつろげない。

#### デザインのヒント

庭は通り沿いに配置して、かつ植栽などで他人の目からある程度守られるようにする。



### 「小さな広場 (Small Public Squares)」

通りに面した小さな広場で、様々な活動が繰り広げられる。大きすぎる広場はさみしく見え、誰も寄り付かない。

#### デザインのヒント

広場は、人の顔が見え、声が聞こえる程度の狭さにすること。



### 「座れる階段 (Stair-Seats)」

人が心地よくいられる場所は、周囲を見渡すことができる程度に小高く、しかも周りで起こる活動に加われる程度に低い位置である。

#### デザインのヒント

人がぶらつく場所は、その外縁部に、2,3段の階段を設けること。ゆったりと腰を下ろしたり、集まっておしゃべりしたりできるようにすること。



### 「さわれる花 (Raised Flowers)」

道端や家の足元に花があれば、花に触れたり香りを楽しんだりすることができる。人の目を楽しませることができる。

#### デザインのヒント

身近な場所に草花を植え、花を守りつつ手が届く距離にするために、花壇を少し高くすること。



(「パタン・ランゲージ」(C.アレグザンダー他著、平田翰那翻訳)を参考に作成)

今回用いる「キーワード」は、「パタン・ランゲージ」の仕組を参考に、豊橋市における「地域らしさ」を活かし「魅力アップ」をめざす景観づくりにおける、重要なポイントを言語化し整理したものです。

## (2) キーワードを用いたデザインの流れ

建築物等のデザインは、3つのステップを踏んで進めます。ステップ1で地域の景観の特徴を読み取り、ステップ2でデザインのコンセプトを考え、ステップ3で具体的なデザインを行います。

ステップ2のデザインのコンセプトを考える段階では、「**地域らしさのキーワード**」と「**魅力アップのキーワード**」の2つのキーワードを用います。

「**地域らしさのキーワード**」は、地域の景観の特徴を継承し、地域らしい良い景観づくりを進めるために用いるもので、ステップ1で読み取った地域の景観の特徴をもとに考えます。

「**魅力アップのキーワード**」は、その場所の景観をより魅力的にするために追加的に用いるもので、エリアを限定せずに使えます。

本章では、それぞれのキーワードの例を整理しています。また、第3章では、各エリアで用いることのできるキーワードと、それを用いた具体的なデザイン例を示しています。

### ■ キーワードを用いたデザインの流れのイメージ

1

#### 読み取る



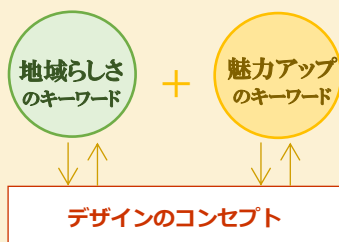
#### 地域の景観の特徴を読み取る

- ・地域の成り立ちや周辺景観に目を向け、良い景観の特徴を読み取ります。(P98~99参照)

2

#### 考える

※キーワードは  
P38、39を参照



#### キーワードを整理して、デザインのコンセプトを考える

- ・①で読み取った地域の景観の特徴をもとに、「**地域らしさのキーワード**」を整理します。また、より魅力ある景観づくりのために「**魅力アップのキーワード**」を整理します。
- ・キーワードをまとめて「**デザインのコンセプト**」を考えます。

3

#### デザインする



#### コンセプトに沿って、キーワードを確認しながらデザインする

- ・②で考えた「**デザインのコンセプト**」に沿って、キーワードを確認しながら、具体的なデザインをします。



■ デザインの進め方のポイント

- ・建築物等をつくろうとしている地域の景観の特徴について、地域の成り立ち、地形、建築物の状況、人々の暮らしなどに着目して整理します。
- ・読み取った内容を「地域の景観の特徴」という短い文章にまとめると、理解が深まります（事前協議の際には必要です）。

- ・第3章の「エリアごとのデザインの進め方の例」を参考にしながら、読み取った地域の景観の特徴を表す「地域らしさのキーワード」を考えます。また、より魅力ある景観づくりのために「魅力アップのキーワード」を整理します（必要に応じて）。

- ・キーワードをまとめて、景観計画に示したエリアの景観形成の目標像等を考慮しながら、デザインの方向性となる「デザインのコンセプト」を考えます。

- ・第3章の「エリアごとのデザインの進め方の例」を参考にしながら、「デザインのコンセプト」に沿って、具体的なデザインを検討します。必要に応じて、②に戻って、キーワードを追加します。

- ・具体的な景観配慮は、「第1章 景観づくりの基本的な考え方」を参考にしてください。

- ・色彩を検討する際は、①の下に示した「エリア内で見られる調和色」を参考にしてください。

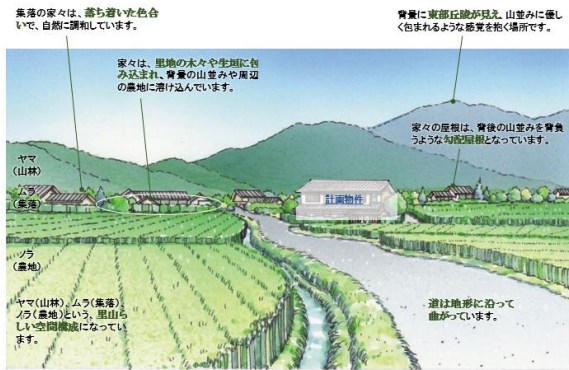
■ デザインの進め方の例（第3章）

1. 東部丘陵里山エリア 一集会所の例一

1

地域の景観の特徴を読み取る

・建築物等をつくろうとしている地域の景観の特徴について、地域の成り立ち、地形、建築物の状況、人々の暮らしなどに着目して整理します。



### (3) キーワードの整理

キーワードとは、デザインをする際に配慮すべきことを言語化したものです。ここでは、本市の良好な景観形成に活用できる、地域らしさのキーワードと魅力アップのキーワードを整理しています。それぞれのキーワードは、新たに追加することも可能です。




#### 地域らしさのキーワード

地域らしさのキーワードは、地域の景観の特徴を継承しながら、地域らしい良い景観づくりを進めるためのものです。第3章のデザインの進め方の例に、各エリアで活用できるキーワードの例を示していますので、該当するエリアをご覧ください。また、地域の景観の特徴の読み取り方を参考資料（P98～99）に示しましたので、新たにキーワードを考える際の参考にしてください。

#### ■ 地域らしさのキーワードの例

視 点		
自然・地形など	歴史など	まち・暮らしなど
東部丘陵の山並み	里山の空間構成	都市の風格
石巻山の眺め	のびやかな田園	路面電車
遠くの山並み	広がりのある水田	穏やかな屋根
斜面緑地	城下町の記憶	ゆるやかな境界
河畔の緑	宿場町の薫り	落ち着いた色合い
海岸林	湊町の面影	穏やかな色合い
包み込む緑	漁村の面影	賑わいの連なり
つながる緑	静かな路地	にじみだす賑わい
潤いある流れ		車窓からの眺め
開放的な水辺		楽しさの連なり
ゆるやかな起伏		導く入口
ウミガメが訪れる砂浜		歩きたくなる道
豊かな干潟		のびやかな壁
海とつながる広い空		退いた壁
曲がりくねる道		控えめな広告
小さな人工物		隣への緩衝
		豊かな夜景

※地域らしさのキーワードは、その場所に不足していれば、魅力アップのキーワードとしても使えます。


 魅力アップ  
のキーワード

## 魅力アップのキーワード

魅力アップのキーワードは、その場所の景観をより魅力的にするためのものです。魅力ある景観は、足りないものを新たに加えたり、気づいていないものを見つけだしたりすることで高まります。そこで、エリアを限定せず使える、その場所をより魅力的にするためのキーワードを、次のように整理しました。なお、魅力アップのキーワードは、新たに追加することも可能ですので、必要に応じて積極的に検討してください。

### ■ 魅力アップのキーワードの例

視 点		
自然・地形など	歴史など	まち・暮らしなど
大きな木 実のなる木 風土に合った緑 見え隠れする庭 融和させる緑 水に触れあう場所 移ろいの仕掛け 自然な敷き際 身近な花	神聖な場所 地域の宝 祭事の場所 土地の履歴 受け継がれてきた様式	眺める場所 顔となる場所 アイストップ 余白の空間 人だまりの空間 心地よい居場所 記念の場 人の尺度 壁の分節 ふさわしい材料 仕上げの表情 おもてなしのしつらえ 目立たない設備 見えにくい駐車場 魅せる広告 あたたかな灯り

※魅力アップのキーワードは、地域の特徴になっていれば、地域らしさのキーワードとしても使えます。

